

2014年度
帶右市
文化賞
文化獎勵賞

帶右市教育委員會

帯広市文化奨励賞



おお つか よう こ
大 塚 陽 子

(本名 野原陽子)

(55才)

選考理由

氏は、昭和20年代後半からたゆまず歌作をつづけ、帯広市における代表的な女流歌人として秀れた短歌を精力的に発表され、その卓越した力量は全国的にも高く評価されております。

また、道内でも有数の辛夷短歌会の指導者として、後進の指導にあたるほか地元歌人の連携にも尽力され、斯界の発展に多大な貢献をされてきております。

こうした、長年にわたる真しな活動は、地域文化の向上推進のために今後ますます期待されており、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するにふさわしいものと思料されます。

経歴

昭和5年樺太の敷香町に生まれる。
旧制樺太庁立豊原高等女学校卒。昭和23年7月樺太より引揚げ、小学校教諭を経て国家公務員となり昭和55年退職。

昭和26年 短歌結社誌「潮音」「新墾」入社。

昭和29年 文芸誌「短歌研究」(短歌研究社)五十音詠に応募し最高点を得たが、病床にあった中城ふみ子が逆転入選した経緯は有名。

昭和30年 短歌結社「辛夷」入社。

昭和57年4月 歌集「遠花火」(雁書館)を出版。

昭和58年3月 「第7回現代短歌女流賞」(東京・文化出版局)主催を受け、わが国の一流の女流歌人と評価される。

昭和57年8月～現在まで
北海道新聞日曜版文芸欄「四季のうた」を連載執筆。

昭和58年4月～現在まで
市民文芸編集委員

昭和59年1月～現在まで
日本短歌雑誌連盟の昭和60年度優良歌誌に選ばれた短歌結社誌「辛夷」の編集発行人として尽力。

昭和60年度 短歌結社誌「辛夷」に野原水嶺賞を新設。

その他 現代歌人協会会員、北海道歌人会幹事。「潮音」幹部同人。